

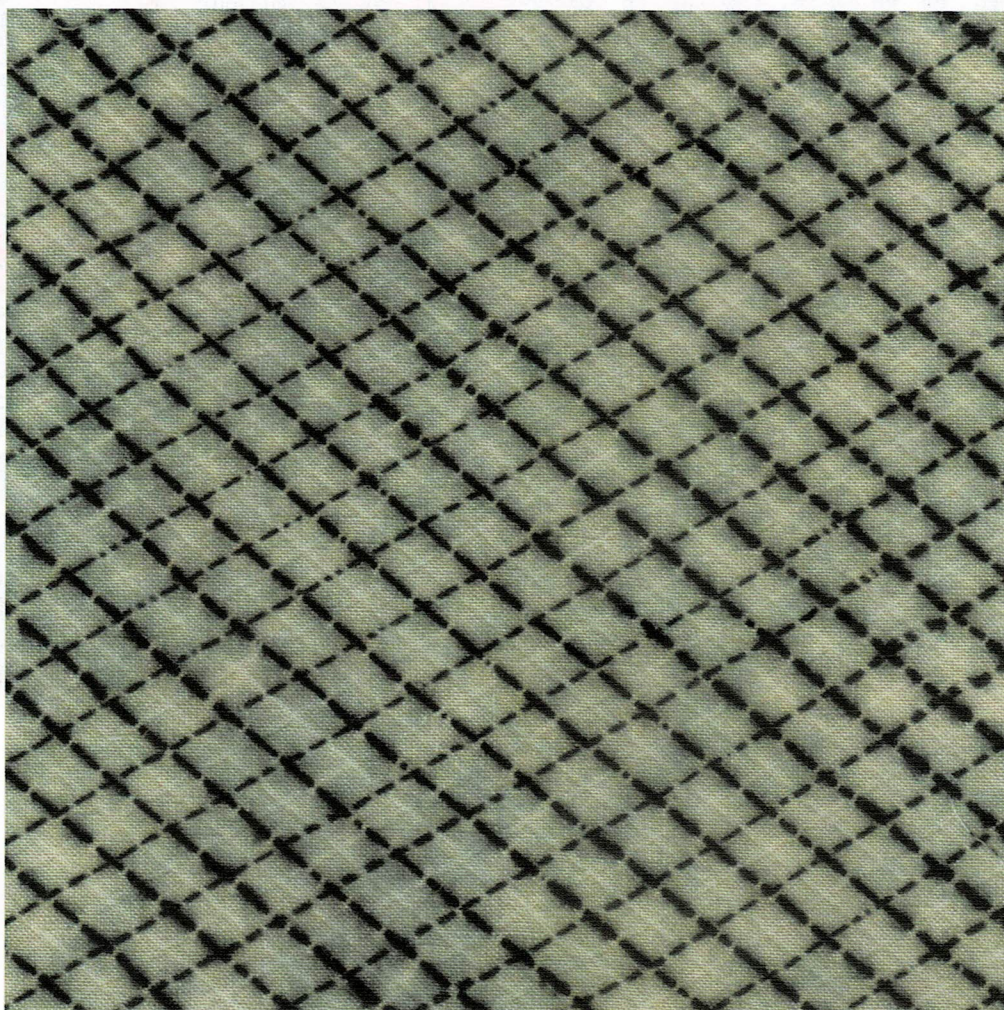


JAPAN HERITAGE

日本遺産

有 松

NO. 95 有松まちづくりの会



◇格子改良嵐紋

この格子改良は、斜めの線を二度染めすることによって、格子柄になる嵐紋です。
棒に45度に生地を右巻きし、左回転させ糸をかけ押し縮めのりを塗り乾燥、糸をはずし染色。
次に生地を裏返しにし、左巻きし左回転させ糸をかけ押し縮めのりを塗り乾燥後糸をはずし
裏返しに竜巻加工をして染色するという手間のかかる技法です。

解説：竹田 昌弘

重要伝統的建造物群保存地区選定10周年

有松まちづくりの会 会長 中濱 豊

2016年7月25日に有松地区が大都市における街道沿いの町並みとして全国で初めて国より重伝建選定を受けて10年となります。また、2019年5月には、文化庁から日本遺産にも認定を受けました。正に日本の宝と認められた事となります。

1608年の開村以来418年、先人たちのたゆまぬ営みに感謝したく思います。現代を生きる我々の使命は、この宝を後世により良いものにして受け継いでいくことではないでしょうか。近年、保存地区において空き家が徐々増えつつ危惧されておりますが、一方、名鉄本線有松駅が近く、駅北側には、イオンタウンが隣接していることもあり、生活便利な地区として新しく居を構えられる若い世代もおられます。従来の住民の方と新しい住民の方との接点を様々な行事等を通じて融和を図っていかれたらと思います。幸い今年度は、日本遺産事業において有松に関連した文化的

ワークショップが年明け以降に計画されておりますので会員の皆様におかれましても積極的に参加していただき、また新しい住民の方にもお声掛けをしていただき、みんなで有松を盛り上げていきましょう！

さて、ここで有松における古民家利活用事業について触れさせていただきます。最初に中町交差点にある旧山田薬局の利活用事業が7月から本格的に改装工事に着手し、完成は2027年9月～10月の予定です。東海道に面した1階をCAFÉ、1・2階に宿泊施設4部屋を計画しており、完成の際には、有松の活性化に寄与するものと思っております。現在CAFÉのテナントや宿泊施設運営会社とも打ち合わせを進めており、有松の文化や歴史を鑑みた営業をしていただくようお願いをしております。工事の進捗状況等は、毎月発行のかわら版にて随時お知らせできればと思います。

ます。そしてもう1件プロジェクトが進行中です。こちらは、詳細は控えますが古民家を改装して飲食施設を誘致予定です。有松は、来訪者のみならず地元の方々からも、他の重伝建地区に比べ飲食施設や休憩スペースが少ないと言われておりますので、その点を補完できればと進めております。

このように有松における古民家利活用事業につきましては、建物所有者、テナント会社とそこで働く人々にとってより良い施設になるだけでなく、この新しい施設ができることによって地域に住まわれている方々、お店を営んでいる方、来訪される観光客の方々、皆に良い施設となることを願っています。

三方良し、四方良し、五方良し、となりますように今後とも皆様のご協力をお願いできれば幸いです。

有松日本遺産推進協議会 主催

『文化体験博 有松コレクション』開催

期間 二〇二七年2月13日(土)～3月22日(月・祝)

有松らしさを考えてみる

愛知淑徳大学建築学部 教授 溝口 正人

会報への寄稿は二回目。今回は重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）選定にむけての調査が始まる

二〇二二年でした。伝建審議会委員を任期満了で昨年退任し、最近是有松を訪れる機会も減りましたが、町並み保存に関わる雑感に、選定十年の紙面を頂戴する次第です。

■増え続ける伝建地区

前回寄稿当時は八二市町村の九八地区であったが重伝建地区は、本年五月の答申を経て、一〇七市町村の二三〇地区となります。一九七六年に初めて妻籠が重伝建地区に選定されてから五十年、単純計算で一年に2.6地区のペースで重伝建地区は増え続けてきたこととなります。

重伝建の選定基準は（一）伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの、（二）伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの、（三）伝統的建造物群及びその周囲の環境が地域的特色を顕著に示しているもの、となっています。有松のみならずからみて、ここが重伝建？と思われる町並みもあるかもしれ

ませんが、二三〇地区がこの基準のどれかに当てはめて特徴を評価されたこととなります。

■町並みの有松らしさ

有松は基準の（二）に該当し「近代から昭和初期にかけて最も栄えた東海道沿いの町並みで、絞商の豪壮な屋敷構えと紋りに関わる諸職の町家が混在して建ち並ぶ、特色ある町並みを良く残す」「染織町」として評価されました。染織町とは有松の選定で初めて用いられたことばで、町並みの特徴を成り立ちから示したのですが、今日、有松の生活実感としてはピンとこないようにも思われます。

東芝、ソニーといった日本の高度成長を支えた大企業が、生き残りをかけて業態を変化させています。重厚長大から軽薄短小へ、さらにはデジタル世界へと産業の先端は変化して、生産施設（ハコ）の有り様も変わりました。「染織町」有松を支えた絞り産業も同様で、天下の筆頭街道、東海道という立地に根ざした店頭販売から、交通網の整備とともに近代では商社へと業態も変化し、絞り商のたたずまいも変化して

きたのでした。改めて継承すべき町並みの「有松らしさ」とは何だろうと考えています。

■町並み継承の有松らしさ

重伝建制度は、あくまでもモノ（文化財）としての建造物群の評価と継承が目的で、建造物群をいかに継承していくかに補助がなされます。一方で、そこに暮らす生活の継承は別途考えていかなければならないこととなります。生業の変化とともに住み手も生活のありようも変わり、建物とその集積としての町並みと生活とに不整合が生じることに、伝統的な町並みを調査していると気付きます。郊外住宅地の快適さとは違った住みこなしの有松らしさは何なのか求められているように思われますが、私自身はうまい答えが引き出せていません。

私に関わる町並みも含め、高級宿泊施設が伝統的な町並みに競うように設けられています。その全国的な集積は、町並み訪問のひとつの動機付けになると思われますが、まだまだ時の経過の中で行く末を見極めていかなければならないようにも思われます。全国の重伝建二三〇地区、それぞれの町並みにそれぞれの継承の方策があるように思われます。町並み継承の「有松らしさ」を、今後も住民の方々が検討されることと思います。マチ医者である私は、それを見守っていきたいと思っています。

有松日本遺産推進協議会の活動内容の報告 根尾文彦

2026年1月29日に新しく発足した「有松日本遺産推進協議会」はこれまでの組織を改編し、行政と地域が一体となって、日本遺産のストーリー（江戸時代の情緒に触れる絞りの産地～藍染めが風にゆれる町有松～）をより具現化し、地域の歴史的魅力や特色を国内外に発信することで、地域の活性化及び観光振興を図ることを目的としている。

組織体制は有松まちづくりの会会長が協議会の会長、有松あないびとの会会長が副会長、地域の各組織団体（有松学区区政協力委員会、有松校商工協同組合、NPO法人コンソーシアム有松、愛知県絞工業組合、有松商工会、有松天満社文嶺講、有松史料調査保存会、有松地域デザイン委員会）の長および（公財）名古屋観光コンベンションビューローが理事となり総勢11名のメンバーで構成されている。事務局は名古屋市が担当することで、行政と地域双方の連携を強固な体制となっている。協議会の活動を具体的に推進するために、「観光・広報チーム」と「展示・アーカイブチーム」を立ち上げて、それぞれの目標に向かって活動をスタートした。

〔観光・広報チーム〕

主な事業内容は次の4点である。

① 観光マーケティング調査

有松絞りまつりの来訪者へのアンケート調査にて495件を回収済。また岡家住宅への来場者へのアンケート調査にて7月末時点で約1,129件を回収。今後は回収した調査内容を専門業者のアドバイスを受けて詳細に分析を実施予定。

② 日本遺産ウェブサイトのリニューアル

現在は有松・鳴海絞会館のホームページ内にあるウェブサイトを改修し、地区全体のリブランディングや観光客の利便性の向上を図っていく。また、地域においてサイトの運営ができるように特定の方に依頼して今後も継続できる体制を構築中である。

コンセプト 絞りで世界を結ぶまち 日本遺産 有松

コンテンツ(案) イベント情報、記事、お知らせ、構成文化財、観光情報等

③ 文化資源を活かしたプログラム集約型イベントの開催

イベント名(案) 文化体験博 有松コレクション

事前説明会

9月24日(木) 14時～18時～

実施時期 令和9年2月13日(土)～3月14日(日)

10月10日(土) 18時～の3回

④ 有松勉強会の開催

1回目 令和8年2月25日(水) 18時～19時30分 有松・鳴海絞会館

タイトル 日本遺産「信長公のおもてなしが息づく戦国城下町・岐阜」や長良川流域の文化資源を活かした取組み

講師 NPO法人ORGAN 理事長 蒲 勇介氏

2回目 令和8年6月30日(火) 18時～19時30分 有松・鳴海絞会館

タイトル 「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 ～御食国(みけつくに)若狭と鯖街道～」における地域DMOの取組み

講師 まちづくり小浜・おばま観光局 取締役 御子柴 北斗氏

3回目 令和8年10月27日(火) 18時～19時30分 (予定)

タイトル 地域ブランディングのコアヴァリュー

講師 一般社団法人富山県西部観光社 水と巧プロデューサー 林口砂里氏



〔展示・アーカイブチーム〕

本チームは史料の調査研究・公開や展示にかかる検討を行うことを方針としており、より専門的な知見を活かして目的を達成するために、名古屋市教育委員会文化財保護課も構成員としている。また、地域では絞関連の貴重な史料を所有されている竹田嘉兵衛商店も構成員となっている。2019年10月に発足した有松史料調査保存会はこれまで7年にわたり、有松の貴重な史料の調査・収集を手がけてきた。地域住民が中心となって10名で活動を継続している。これまでに様々な史料の収集及び、どの家庭にどのような史料が保管されているかの調査も行ってきた。また活動報告会として1年に1回の発表会を開催している。今後は岡家住宅のリニューアルに合わせて、どのような展示・公開ができるかの検討を進めて行く予定である。チームとしての活動はまだ十分ではないが、今後も史料調査保存会の活動と連携を取って、より有効的な活動内容にして行く予定である。

本協議会はより具体的な活動を推進することにより、有松が有する伝統的文化資源を活かした、他には見当たらないまちづくりを目指しています。来訪者が感動を享受して他の人に伝えたいまち、住んでいる人が誇りに思うまちづくりを目指しています。

「旧山田薬局」が宿とカフェに生まれ変わります

旧山田薬局 山田修生

江戸時代から続く美しい町並みと、伝統産業「有松・鳴海絞り」、「祭り・山車」の文化が今なお息づく有松の東海道沿いにあり、戦前は絞り問屋で伝統的建造物の「旧山田薬局」。ただ保存するだけでなく、今の時代を生きる人々が集い、使い、愛される場所にするのにはどの様にするのが良いのか、を考えていました。2012年に名古屋市役所の方が旧山田薬局お掃除隊を企画し、次に「町家ワークショップ」を行って、旧山田薬局の歩みが始まりました。その後、美術館、若者の事務所、観光案内所、ワークショップ等を色々行ってきました。

建物の維持も含め10年20年先を見据えて、自走できる旧山田薬局にするためにどのようにするのか、名古屋市とも相談を重ねた結果、2025年に「有松地区古民家利活用事業」に参加することとしました。

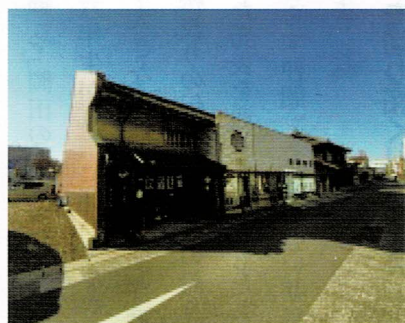
事業を実施するため、名古屋鉄道(株)、(株)つぎと、地元有志による「有松未来創造株式会社」が設立され、文化庁の指導のもとに具体案の検討を重ねました。そしてこの度、伝統的な工法ができる紬建築により、薬局として親しまれてきた意匠や江戸後期の建築美を可能な限り活かしながら修繕することとなりました。

2027年秋には全4室の宿(有松・鳴海絞りの意匠を取り入れた装飾)と、誰もが気軽に立ち寄れるカフェへと生まれ変わります。

工事期間中は近隣のみなさまにご不便をおかけすることと思いますが宜しくお願いいたします。また、生まれ変わる旧山田薬局の見守りを宜しくお願いいたします！

*改修内容等はあくまで計画ですので変更になる場合があります。

改修前



改修後のイメージ

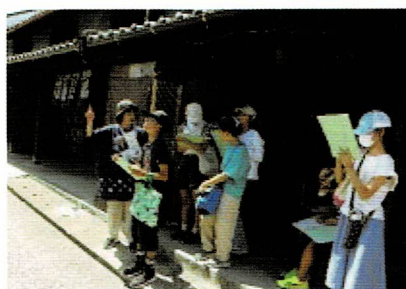


伝統が結ぶ二つの街の未来 知多市立岡田小学校

知多木綿の歴史が息づく岡田の街で日々元気に学びを深めている岡田小学校の六年生。今年度より、総合的な学習の時間の中で、自分たちの暮らす岡田の歴史や文化、伝統の継承について学んでいます。そこで、知多木綿生地問屋の竹内さんや絞職人の佐藤さんのお力を借りて、同じように地域の歴史や文化を大切にしており、伝統工芸「有松絞り」で全国的に知られる有松地区にある有松小学校との交流が実現しました。

本物に触れる「有松あないびと」との街歩き

有松に到着した六年生を待っていたのは、ボランティアガイド「有松あないびと」の皆さんでした。総合的な学習の時間の目標の一つは、単に知識を暗記



するだけでなく、実際に調査・研究をする中で、歴史の背景を「実感」することです。事前学習の中で有松の街並みに興味をもった子どもたちは、実際の様子が見られることをとても楽しみにしていました。江戸時代の面影を残す、うだつの上がつた壮麗な商家の連なる街道や軒先を飾る家紋瓦に、有松が積み重ねてきた歴史を感じ、子どもたちの目が輝く様子が見られました。あないびとの方が「この建物は…」と話始めると、一言も聞き漏らすまいと熱心にメモを取る姿は印象的でした。「なまこ壁や板塀が連なる様子は岡田の街並みと似ているね。共通するところがありそうだ。」「古い郵便局の活用方法が違っているよ。」と、これまでの学びと結びつける様子が大きな成長を感じました。

有松小学校の六年生との出会い

街並み散策の後は交流会に臨みました。お互いの発表の場では、岡田小の六年生は、自分たちの誇りで

ある「知多木綿」や「岡田の歴史」について発表しました。有松小の六年生が真剣に聞いてくれたことが、子どもたちの大きな自信になったようです。また、有松小の「有松絞りの伝統」や「街への誇り」に関する工夫を凝らした発表を通して、子どもたちの心に「歴史ある街に暮らす仲間」としての強い共感が芽生える様子が伺えました。

ともに、未来を切り拓くリーダーへ

今回の有松訪問は、子どもたちにとって、教室の中だけでは決して得られない貴重な学びの連続となりました。地域の歴史を守り、未来へつなぐようとする人々の思いに触れたこと、そして、同じ志をもつ有松小の仲間と出会えたことは、これからの人生において大きな財産となると思います。学校に戻ってきた子どもたちの振り返りシートには、「有松のみんなの街を大切する気持ちに負けないように、岡田をもっと元気にしたい。」「岡田のよいところを、もっとたくさんの人に発信していきたい。」といった力強い言葉が並んでいました。有松の魅力と出会い、外から岡田を見つめ直したこの経験を糧に、岡田の街を引っ張る頼もしいリーダーへとさらに飛躍していくと信じています。交流会の中でお渡しした「綿の苗」の生長、そして「知多木綿」が有松で絞られ、どのように紡がれていくのか、とても楽しみです。子どもたちを温かく包み、最高の学びの場を提供してくださった有松の皆さんに、教職員一同、心より感謝を申しあげます。

東町布袋車 刺繍大幕復元新調の現場から

令和元年(2019)より着工した東町布袋車の刺繍大幕復元新調事業は、本年度で8年目に突入する。布袋車は、延宝3年(1675)以前から名古屋城下町の下玉屋町より若宮祭りに曳き出されていた祭礼車で、明治24年(1891)に橋東町の中老たちが購入して現在にいたる。

刺繍大幕の「復元新調」とは、経年劣化や長年の使用により破損が進み、修復が不可能になった歴史的・芸術的な品に対して用いる手法である。単に「古いものと同じデザインで新調する」だけではなく、伝統的かつ芸術的な価値を損なわないようにしつつ、100年先に残るよう実用性を考慮して新調するのが「復元新調」である。

布袋車の刺繍大幕における復元新調の大まかな工程は、①旧幕の調査、②仕様決定、③原画・下絵制作、④刺繍、⑤仕立加工の順におこなわれる。名古屋教育委員会文化財保護課や京都の老舗の株式会社川島織物セルコンを筆頭に専門家と協議を重ね、旧幕の調査などを経て復元新調に着手した。令和4年春(2022)に正面幕、令和5年春(2023)に見送り幕、令和8年夏(2026)に左面幕が完成し、現在は右面幕の復元新調へと移行している。すべての刺繍大幕が完成し、布袋車が新刺繍大幕にその身を包むのは今から約3年後の予定である。

復元新調はすべてひとりの職人による手しごとで

進められるため、幕1枚に約4年の歳月を要する(見送り幕は1年で製作)。旧幕の調査に基づいて復元新調は進められるのだが、旧幕製作当時と比べて現在は金糸の種類が少ないことから、金糸を綴じる糸の変化で色差を付ける技法を用いている。全体の色バランスを考慮した金糸や綴じ糸の配色、糸のはこびも自然な流れになるように針を進めるなど、ていねいに進められている。



布袋車の刺繍大幕復元新調事業では、その軌跡も後世へ伝え残すべく、経過報告とともに有松絞りまつりでの特別展や秋季大祭での大幕御披露目をおこなっている。本年度秋季大祭では、この夏に完成した新左面幕の御披露目を予定している。この歴史的一大プロジェクトの生き証人として足をお運びいただけたらと思う。

※布袋車の刺繍大幕復元新調事業の詳細はQRコードから。



街角ウォッチング ③〇

絞り体験の楽しみ

連日37、38度の気温が続く、40度をこえる日も何とか耐えて一日を過ごすことになった今年の夏、東海道を行き交う人はどうでしょうか。暑さにも負けず遠方からおいでくださる方々も多いです。

最近のお客様は絞り体験をされる方が多いと思います。今は日本手ぬぐいを折って板でしつかり締めて染料につける板締め(雪花絞り)が人気です。比較的短時間で出来て、出来上がる幾何学模様はとても華やかで、体験した人の心をウキウキさせます。緊張の染色の後、板を外し、水洗いをして、ぱつと布を広げた時の皆様の笑顔は体験の楽しさを表していると思います。「美しい体験が出来た!!良かった!!」皆様が満面の笑みなのです。

出来上がった作品を広げてニコニコ顔で写真を撮っておられます。本当に楽しそうです。

有松も日本遺産認定7年目、少しずつ変化しています。町家はレンタルスペースに加え、宿泊施設などに改修の工事が進められています。絞り産業と祭り・町並みを軸として、どんな感じに進化するのでしょうか。楽しみですね

(浅野康子)

◆有松天満社秋季大祭・有松山車まつり

日時 10月4日(日) 10時～

場所 有松東海道二円

※布袋車「新左面幕」御披露目

(有松山車会館にて)



◆名鉄キャンペーン

「秋の有松めぐり(有松おさんぼきつぷ)」

期間 9月19日(土)～12月6日(日)



◆「絞」「瓦」灯りストリート

日時 10月26日(月)～11月1日(日) 17時～21時

場所 山与遊歩道

◆有松ミチアカリ

日時 10月31日(土)・11月1日(日) 17時30分～20時

場所 有松東海道西町・祇園寺境内

◆いけばなストリート展2026

日時 10月31日(土)・11月1日(日) 10時～17時

場所 有松東海道二帯

◆アリマツチケット

日時 10月31日(土)・11月1日(日) 10時～16時

場所 有松天満社・モスアリマツ

◆あいちのたてもの博覧会

日時 11月14日(土)

山中医院 ①13時15分～②14時30分～

中濱家住宅 ①10時～②14時30分～

岡家住宅 ①11時15分～②13時15分～

◆主な来訪者◆(あないびとの会ご案内分)

・阪急交通社「東海道五三次を歩く」

・中部大学留学生

・桜花学園大学・桜花学園大学留学生

・小林豊子きもの学院

・名古屋学芸大学留学生

・相山女学園大学

・(株)ミレーノ(イタリアの高校生)

・瑞穂鯉城会

・ワールド航空サービス

・シニアクラブ竜洋

・鯉城学園史跡散策クラブ

・愛知県職員組合

・多治見商工会議所

・知多市立岡田小学校

・愛知シルバークレッジ

・Soniligo

・服飾文化学会

・ワールドシビックオーケストラ

・市民三学東野委員会



有松の町並み(長坂道)

©編集 豊田信行

俳句

「雑詠」

江山

秋高し唯一筋のジェット雲

苔生すも秋の冷たき坐禪石

柳散る藍染川に真直ぐに

編集後記

酷暑日が設けられた今年の夏。「かつて経験したことのない…」災害が相次ぎました。

有松の町並みでは、新築や改築、改修用の工事を多く目にしました。

重伝建の選定から10年。選定の知らせを受けた時の感激、みんなで祝った行事の数々。町並み相談会を始めとする「有松のまちのみんなで町並みを次世代に繋げる」活動が実を結んできたことを、東海道の修景が少しずつ進んできた今夏、感じることができました。

専門家の先生方や名古屋市のサポート体制は充実。私たち住民が更に気持ちを入れて、周りから応援くださる皆さんと共に「有松らしさ」を創造して参りましょう。

(加藤明美)

企画編集(伊藤総俊・福岡友一・山本文雄・中村昭子)

◆有松まちづくりの会はホームページを公開しています。
「有松のまち」で検索

〈有松まちづくり憲章〉

私達は、先人から受け継いだ有松のたからものを守り、次世代に届けるために、この憲章を定めます。

一、有松の町並み・絞り・山車を守り、誇ります。

一、人と人がつながり、ぬくもりのある有松を創ります。

一、有松の歴史や物語を学び、遊び、伝えます。

有松まちづくりの会

二〇二六年九月三十日発行
(年一回発行)

〒458-0924

名古屋市長区有松三〇一二(有松商工会内)

TEL (052) 6221-0178

FAX (052) 6221-7401